



女優

飯島 直子さん

元祖癒し系と言われる飯島直子さんに、デビューから日々のお仕事、生活について考えていることなど、お話を伺いました。終始笑顔で受け答えされるやわらかい雰囲気インタビューアール一同、癒されながらのインタビューとなりました。

聞き手・構成：高橋 辰三，小峯 健介

写真撮影：坂 仁根

— デビューは何年になられるのですか。

1990年のカネボウのキャンペーンガールがデビューみたいな感じですが、テレビデビューとなるともう少しその2年ぐらい前に『11PM』のカバーガールをやっていたんですね。

— 今でいう、アイドルみたいな感じですか。

『11PM』は、最初は大橋巨泉さんが司会をやられていて、その後は曜日ごとに司会者が変わって。私は金曜日担当で、そのときの司会は高田純次さんと吉田照美さんだったんですよ。そこで毎日カバーガールも変わるんですけど、1人の曜日があれば2人もあるし3人もあるし、私は金曜日で一番多くて当時6～7人ぐらいいましたね。

— 芸能界に入ったのはスカウトですか。

いや、このモデルをやっていて、いつの間にか芸能界に流れて入ったみたいな感じですかね。

— モデルをやっていて、流れでテレビのお仕事も？

そうですね。いつの間にか芸能の方になっていったという感じかな。モデルを始めたのは17歳ぐらいですかね。

— 高校時代はどんな感じの学生だったんですか。

高校生のときは、結構冷めた子だったかも分からないですね。中学生のときはやんちゃで小学生のときはすごくおとなしい内向的な子でした。

— モデルはご自身が目指されて？

そうですね。今はわりと私の身長よりも大きい人がたくさんいるんですけど、当時の私の年代だと164～165センチって結構大きい方だったんですよ。当時はすごくコンプレックスで。中学生ぐらいのときからこの身長だったので。

以前は美容師を目指していたんです。母方がみんな美容、理容の家系だったので、当然そういうふうになるだろうと自分でも思って目指していたんですけど挫折して、そんな時、この身長を活かせることって何かなと思って。その後、モデルの世界に入ったら意外と小さい方だったという感じです。

— 芸能界の第一線で活躍するようになっていくわけですが、転機というのがありますか。

それはやっぱりジョージアのCMかなと思いますね。

— ジョージアは何年ぐらいされていたんですか。

ジョージアはたぶん7～8年ぐらいやっていたと思いますね。最初にCMをやったときはたぶん26～27歳ぐらいだったと思うんですけど、当時は3人でやっていたんです。20代が私で、30代が安田成美さん、40代が古手川祐子さんだったんですね。

— おお、豪華ですね。

この3人で、私は20代だったので20代のサラリーマンに向けて「ひと休み」みたいなメッセージを投げまし

よう、30代の安田成美さんは30代のサラリーマンの方に、40代は古手川さんがという感じでした。

— 女優の方が缶コーヒーのCMって斬新ですよ。

そうですね。当時はどうだったんだろう。当時ボスは矢沢永吉さんがやられていたので、やっぱり男の人のイメージは強いですよ。

— 当時は缶コーヒーにポイントシールが貼られていて。飯島直子さんのグッズが当たるといので、みんな応募をしたんですよ。

そうなんです。ありがたいことにギネス記録になったんですよ、応募数が。一番最初に出したのがやすらぎパーカーといってパーカーだったんです。その後に出したのが、がんばってコートでした。

— ベンチコートみたいなコートでしたか？

そうです。それが爆発的な応募数があった。

— 私も応募をしていました、中学生のころ。

本当？

— はい。

え、中学生？

— 当時は同じ時期だと、ダイドーが竹野内豊さんで。飯島さんは、ジョージアの人という感じのイメージを持たれたのではないですか。

そうですね。当時はやっぱりそんな感じでした。どこにいてもジョージアの缶コーヒーを、みんな持ってきてくれて。

— 今日を用意してないです（笑）。

いや、いや、いや（笑）芸能界に入って1つのターニングポイントというか、やっぱりそういう感じでした。

— 中山秀征さんと一緒にされていたテレビ番組も印象が強いんです。

中山秀ちゃんと松本明子さんと。『DAISUKI!』ですね。

— 人気番組になりましたね。

人気でした。深夜12時ぐらいからスタートだったんですけど、最高視聴率14%とか取っていたので。

— 深夜枠で？

はい。あり得ないぐらいの数字だったんです。

— その後もやっぱり中山さん、飯島さん、松本さんって

仲良しなのですか。

そうですね。

— 今は多いですが、当時はあまり仲の良いタレントさんたちがわいわいやっている番組ってなかったですよ。

なかったですね。当時は、食べ歩いたりだとかパチンコをしたりだとか、そういう番組はなかったですね。

— そういうバラエティーに出るにあたり、何か勉強したりとかそういうことは？

いや、しなかったですね。当時は全部一緒にいろいろなことをやらされると言ったらおかしいけど、ちょっと名前が世間に知られると歌を歌わせられたりとか、結構無謀でした。今は、アーティストはアーティスト、女優は女優、タレントはタレントのまま活躍されていますよね。昔はみんなやらなきゃいけないみたいなところがあつたと思うんですけど。

— 飯島さんもCDを出されたんですか。

そうなんです。

— 歌はお得意なんですか。

全然得意じゃないのに、何でなんだろうと思ってました。歌もそうですしバラエティーも、ドラマも映画も全部やらなきゃいけない。できないと言ったらおかしいけど、当時はやっぱり一番忙しかったかな。

— コンサートもされたんですか。

いやいや、しないです。でも学園祭とかは行きました。

— 大学ですか。

大学とかそうですね。結構そういうイベント的なこともしましたよ。そう、そう。Vシネマとかをやっていたときもありましたよ、19、20歳ぐらいのときに。

— 演技はお好きでしたか。

当時は全然。今は好きです。

— 当時は苦手だったということですか。

だって、当時はやっぱり自分の意思とは裏腹に仕事が決まっていた、もうやらなきゃいけないという状況だったの。いや、でも、お芝居はたぶん嫌いではなかったんだと思います。小学校のときから結構演劇クラブとかに入っていたので、嫌いじゃなかったんだなと思います。

— 芸能界に入られるということに、ご家族から賛成、反対とかはありましたか。

そういうのもなくて、親も知らぬ間に芸能界に入っていたみたいなきもちでしたね。モデルをやっていたのは知っていたけど、何をやっているんだろうね、みたいな。そのうち何かちょこちょこ、「あ、テレビに出ているよ、直子」みたいな、そんな感じだったと思いますよ、親にしたら。

— かなりお忙しくやってきた時期で、そのときの経験で忘れられない思い出はありますか。

実は本当に忙しくてあまり良く覚えてはいないんです。歌を歌ったり、レギュラーのバラエティー番組収録、そして当時はCMもたくさんやらせていただいていたので、毎日毎日何かの撮影に追われていて。

その毎日の間を縫うようにドラマ撮影が入ってきて、本当に事務所に殺されちゃうかも分からないと思ってましたよ（笑）。その中でもそりゃあ楽しいこともあったんだろうと思うんですけど、あまり覚えてなくて（笑）。何だろう、睡眠はいつも移動中の車でとるという感じでした。1つだけ忘れられないのが、CMの撮影のときに具合が悪くなって倒れて、ちょっと休憩しましょうと言われて、控室で休憩をしているとお医者さんをお呼びして注射を打ってくれたんですよ。これで、さすがに今日の撮影は中止になるだろうと、ちょっと期待していたら、控室の外で事務所のマネジャーとか社長とかがおもえている声が聞こえてきたんです。『どうするんだよ、お前、この撮影が中止になったら。一旦ばらしてスタッフ招集〜どうたら、こうたら〜で諸々1,000万だぞ』って！これが本当にドア越しに聞こえてきたんですよ。で、結局そうやってもめているのを聞いたら、よし、じゃあ、やりますかと言って、やりました。20代後半か30歳ぐらいのときだったかなと思うんですけど。

— ハードスケジュールの中、同年代またはそれに近い年齢の女性たちのあこがれの存在でしたよね。ナオラーという言葉もありましたし。

当時は安室ちゃんがいて、アムラーという言葉がはやったから何でもそういうふうに使われたけど、ちょっと気恥ずかしかったですよね。

— あ、なるほど。アムラーの方が先なんですね。

そうです、そうです。

— なるほど。メイクですか、当時、多くの女性が飯島さんを参考にしていたんじゃないかと思うんですけど。

昔はそうですね、使っていたリップは何かとか。CMで使っていたりすると、あれは何番なんだろうみたいなそういう感じだと思いますけど。メイクは若いときはすごく好きでしたね。だけど、年齢とともにあまりメイク

にも興味がなくなってきたというのがあります。

— プロにお任せという感じですか。

いや、今も昔もほとんどメイクは自分でやっているんです。

— そうなんですか。

はい。CMとか雑誌の取材だったりするとヘアメイクさんにやってもらっているんですけど、テレビとかは全部メイクは自分で、ヘアメイクさんにスタイリングをやってもらうという感じです。

— 男の私が聞くのもあれなんですけど、美容のため心掛けていることはありますか。

美容に関してはあまりなくて申し訳ないんですけどね。いわゆる今は健康ブームと言っちゃ何ですけど、食べ物も運動とかもあるじゃないですか。そういうことがすごく苦手なんです。すごい体にいいといわれている、スーパーフードとか、買ったりもするんですよ。でも封を開けたことがないんです（笑）。

— 普段はどのようなものを食べられるんですか。

普通のものでしょ。本当に普通ですね。今流行りのスーパーフードを毎日摂っていますとか、そういうことはないですね。

— ジャンクフードは食べます？

ジャンクフードは大好きですね。

— 食べ物にも、気を使ってはいないという感じなんですか。

そうですね、バランスよく食べるようにはしていますけど。だいたいこの歳になって、自分の例えばベスト体重だとか体調がいいとか胃腸の調子がいいなみたいな、やっと分かるまで結構時間がかかりました。1日だいたい2食なんですけど、いろいろな健康法で3食がいいとか1日5〜6食がいいとかいうじゃないですか。一応全部やってみたんですけど。やっぱり自分の体質に合ったものを見つけると、きっとみんな健康でいられるんじゃないかなと思うんですけどね。

— お酒が好きだと。

お酒も結構飲みますね。もう昔よりは量は減っていますが、まあまあ、飲む方も分からないですね。

— やっぱりジョージアのCMがきっかけなんだと思いますけれども、癒し系の代表のような形でいられていますけど、それについてご自身はどう思われていますか。

いや、もちろんすごく気恥ずかしかったというのが本

音です。今はもう癒し系とかは普通にあるじゃないですか、何々系とかいう。当時、癒し系なんていう言葉はなかったですよ。

— 癒し系であろうとして、何か意識されている行動とかというのはあったんですか。

当時はやっぱりありましたね。当時は、あ、こういうことをきっと求めているんだろうなと思って仕事するとき、そういうふうにしていかなきゃいけないという気持ちはありましたね、裏は全然そんなじゃなかったですけど（笑）。

— お仕事で悩まれたとかやめようかなと思われた時期とかってありますか。

ありますね。人生ってそんなに自分の思うようには進まないじゃないですか。もっと違う道を探してみようとかいろいろなことを思ったりしたことは2度ぐらいありましたね。

— 芸能界以外でこういうことをやってみたいということはありませんか。

芸能界以外でありました、けど言わない（笑）。

— あ、言わない、なるほど。

できるまで言わないです。

— お友達というのは芸能界の方が多ですか。

私は芸能人の友達が本当に少なく、連絡を取り合う人というと片手ぐらいですかね。その人たちとも1年に1回とか、半年に1回ぐらいしか会わないという感じですかね。

— 我々は弁護士会の広報ということでこのインタビューをしているんですけど、弁護士に対してイメージってありますか。

弁護士のイメージはありますよ、堅い、難しい。弁護士さんって、遠い存在の人というイメージがありますよね。なかなか接する機会がないじゃないですか、弁護士さんって。

おまわりさんだったら、例えば道を聞きにいくとか落とし物をした時とか、お医者さんも病気だったら先生と会いますけど。弁護士さんは、ニュースとかで見るとか、遠い存在の存在の感じがしちゃいますね。

— 我々からすると警察って、見ると警戒してしまうんですけど、警察官の方が親しみやすい感じはありますか。

警察官の方が親しみはありますね。

— そうですか。残念です。堅いイメージがあるということですね。

お仕事が弁護士と聞いたら、えーっと構えてしまいますね、やっぱり。

— 逆に、飯島さんは、話してみるといわゆる芸能人、芸能人していないという印象を持つんですけどいかがでしょう。

昔からあまり芸能人の友達もいなかったの。今も付き合いが多いのは中学校の同級生とか。いつも遊んでいるのは一般の子なので。仕事の方が気が楽というか、やっぱり同じ世界だとおのずとそういう話題にもなっていくし、面倒くさいというわけじゃないですけど、そんなに、多くなくていいかなという感じですかね。

— 以前都内のスーパーでお見かけしてお声掛けをしたことがあって。

びっくりしちゃった。

— 普段は、まったくマスクとか変装みたいなことってされないのですか。

しないですね。

— 飯島さんってやっぱり見てすぐ、飯島さんだ、って気づかれますよね。

本当？ そうかな。でも、スーパーへ行くときはいつもすっぴんだから……。

— 東京弁護士会の会報ですので弁護士に向けてメッセージをお願いします。

えー、恐れ多くてそんなメッセージなんてとんでもないですよ。やっぱりハードルが高いですよ、弁護士さんって。だから、こんなちっちゃなことで相談に行ったらだめだと思って、行かない人が多いと思いますよ。実際問題、まだ事が起こってなくても、相談には来てもありなんですか？

— ありますね。

それはどんな内容でも？

— どんな内容でも。来ていただいて、まずその中でお役に立てればというところがあるので、そこで遠慮して来なくなっちゃうよりは、来ていただいた方がいいですよ。

そうなんです。

プロフィール いいじま・なおこ

横浜市出身の女優、タレント。缶コーヒーのCMで人気を博し、歌手、バラエティ、舞台、CMとマルチに活躍し、その和やかな雰囲気でお若男女問わず根強い人気を維持している。